

■開催概要

- シリーズ名称 : 2021 鈴鹿クラブマンレース Final Round
- 主催 : 淀レーシングクラブ(チーム淀)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力 : OCCK、KRHC、ARC、AASC、ARCN
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2021-3004
- 会場 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催レース : 総参加台数/154台
 - F420台
 - スーパーFJ.....48台
 - クラブマンスポーツ(VITA)37台
 - CS210台
 - フォーミュラEnjoy25台
- 併催レース : FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP 2021 Round 5/14台
- 開催日 : 2021年12月11日(土)、12日(日)
- 天候 : 11日(土)晴れ、12日(日)晴れ
- 路面 : 11日(土)ドライ、12日(日)ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/

※本年度の鈴鹿クラブマンレースは、この大会でシリーズを終了いたしました。
来年度の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。



VITA クラスで勝利した大八木龍一郎、日本一に輝きガッツポーズ!

2021年鈴鹿選手権シリーズ最後の開催カテゴリー 日本一の座を懸け緊迫のレースを戦った

2021年シーズンは、すべてのレースを鈴鹿サーキット国際レーシングコース フルコースで行うなど、生まれ変わったクラブマンレース。いよいよ2021年シーズンのファイナルラウンドを迎えました。

48台が参加したスーパーFJクラス、さらにVITA、F4において日本一決定戦を実施。さまざまな賞典も付与される豪華なレースで、各ドライバー、チームが日本一の称号を懸けて戦いました。

12月11日は朝から各クラスの公式予選を実施。CS2クラスの西村和真が公式予選で2分12秒763をマーク。2019年に打ち立てられた2分13秒073を塗り替えるコースレコードを打ち立てました。11日は午後にF4クラスのセミファイナル、さらにスーパーFJクラスの第1レグA・Bグループを実施。無事に全レースを消化しました。

12日も朝から絶好のレース日和となりました。8時にフォーミュラEnjoyのスタート進行から一日がスタート。VITA、スーパーFJ、F4のファイナルはいずれもポールシッターが勝利を飾ることができない、波乱の展開に。いずれも終盤までもつれこんだレースに、多くの視線が注がれました。

感染症対策に万全の注意を払い行われた2021年シーズン。エントラントはじめ関係する皆様のご協力のもと、全日程を無事に終えることができました。



大トリを飾ったスーパーFJ。ポールポジションは#8岡本大地だったがレースは大混戦に

■F4 Class セミファイナル

元嶋成弥がポールポジションを獲得するが、ホールショットを奪ったのは加藤智だ。元嶋は1周目から果敢に攻め、すぐに加藤をオーバーテイクする。だが、2周目の130RでHIROBONと黒沼聖那が接触。これによりセーフティカーが導入され、その後、赤旗中断となった。セーフティカーが先導する形でレースは元嶋、加藤、金井亮忠、ハンマー伊澤の順で再スタート。6周目からローリングスタートでレースは再開される。総合2番手、ジェントルマンクラスではトップの加藤が元嶋を追う。3番手の金井と、4番手のハンマー伊澤以降に少し差が開き始める。金井と加藤の2番手争いが激しくなるなか、トップの元嶋はぐんぐん逃げる。レースはそのまま元嶋が勝利。金井とのバトルを制したハンマー伊澤が3位表彰台、2位は加藤となった。



#40の元嶋成弥がポールポジションを獲得。終わってみれば一度もトップを譲ることなくポールtoウィンを決めた



F4クラスで表彰台に立った元嶋成弥、2位の加藤智、3位のハンマー伊澤。高々とトロフィーを掲げた

■F4 Class セミファイナル



ジェントルマンクラスの表彰。トップの加藤智、2位にハンマー伊澤、3位には早坂公希の順となった

■スーパーFJ Class 第1レグ Aグループ

岡本大地がポールポジション。続いて上野大哲、森山冬星、居附明利の順でグリッドに並んだ。岡本がホールショットを奪うと上野、森山が追う。居附は三島優輝とバトルをしながらも4番手の位置をキープしている。トップの岡本を追いたい上野だが、テールtoノーズにまでは持ち込めず、やがてトップ4はそれぞれ等間隔になりバトルは見られず、周回を重ねる時間が続く。結局、レースは鈴鹿選手権シリーズの2020～2021年シリーズチャンピオンでもある岡本が勝利。上野はレースを盛り上げたが2位でチェッカー。単独走行となった森山が3位表彰台を獲得することになった。



#8 岡本大地はポールポジションから好発進。常に上野大哲からのプレッシャーを受けながらも逃げ切った

■スーパーFJ Class 第1レグ Bグループ

予選で2分14秒798をマークした佐藤巧望がポールポジションをゲット。続いて高口大将、八巻渉、高木悠帆の順となった。レースは佐藤がホールショットを奪い序盤から逃げ始める展開に。2番手を走るのは高木、八巻、高口の順だ。佐藤、高木のトップ2は変わらず、次第に八巻と高口が3番手を争ってバトルを繰り広げる。高口は八巻をパスして3番手へと浮上。後半にかけても佐藤は安定感を見せファイナルラップに突入。そこで3番手の高口が、2番手を走る高木とテールtoノーズへ。するとスプーンカーブで高口が高木をオーバーテイクして2番手浮上。レースは佐藤が勝利。高口、高木のファイナルラップの大熱戦がレースを盛り上げた。



#56 佐藤巧望が見事なポールtoウィン。2位でフィニッシュした高口大将に6秒177もの大差をつける完勝だった

■フォーミュラEnjoy class

山崎一平がポールポジションを獲得。2番グリッドの芦田将吾、さらに山根一人、マイスターズカップのトップでもある大川文誠、中嶋匠、永井秀和と続く。レースは山崎が好スタートを決め、芦田が続くと上位4台は数珠つなぎとなる。8番グリッドスタートの辰巳秀一は5番手にまで順位を上げてくる。3周目、芦田が山崎をオーバーテイクしてトップへ躍り出る。すると、徐々に芦田がトップをキープして逃げ始める展開に。調子を上げてきたかに見えた辰巳だったが、スピンにより順位を落としてしまう。いったん芦田にトップを譲った山崎だったが再逆転で再びトップへ。そしてマイスターズカップは3番手を走る大川がトップをキープしてファイナルラップへ。山崎はポールtoウィン。芦田は最後まで追い上げたが及ばなかった。



#70山崎一平がポールtoウィン。山崎はレース後、「今年の鈴鹿では結果を出せた」と振り返った



優勝した山崎一平。2位の芦田将吾は一時トップに立つ走りを見せたが、3位の大川文誠はマイスターズカップのトップ、総合でも3位につけた

■フォーミュラEnjoy マスターズの表彰



大川文誠がマスターズカップのトップをマーク。2位はRyu Mao、3位は小嶋禎一となり2人のバトルはレースをより盛り上げた

■FORMULA REGIONAL Race 12レース

レースは大草りきがポールポジションからスタートするが、2番グリッドの小川颯太がホールショットを奪う。さらに高橋知己が2番手をつけ大草らが続く。大草は高橋をパスして2番手につけると、トップの小川に迫り始める。レースが半分を終えるころ、トップの小川と2番手を走る大草との差が1秒359へと広がる。マスターズクラスのトップは田中優暉と今田信宏が争う。するとDRAGONのコースアウトによりレース中盤でセーフティカーが導入され、残り1周で解除されることに。展開として2番手の大草はチャンスだったが、トップの小川はそのままトップチェッカー。マスターズクラスのトップだった田中は痛恨のスピンにより、今田がマスターズクラス1位。5位の古谷悠河がシリーズチャンピオンを確定させた。



見事なスタートダッシュで勝利した#3小川颯太。セーフティカーが導入される展開にも、最後まで冷静だった



トップの小川颯太はベストタイムで唯一、1分58秒台をマークする走りを披露した

■FORMULA REGIONAL Race 12レース マスターズクラスの表彰



レース展開にも助けられ、今田信宏がクラス1位。2位は畑享志、3位はTAKUMIとなった

■VITA class セミファイナル

マーシャルカー先導によるローリングスタートから、ポールポジションの奥本隼士が好発進。トップに立つ奥本を追うのは大八木龍一郎、大井偉史といったドライバーだ。すぐに大井が2番手につけて、トップの奥本に対してテールtoノーズで攻める。3番手を走るのは大八木だ。5番手を走る山谷直樹に対して、6番手の鍋家武が迫りバトルが見られる。4周目で大井が奥本をパスしてトップへ。奥本、大八木も続き、トップ争いは三つ巴でヒートアップする。終盤で奥本が再び前に入る。レースは奥本を先頭にしてファイナルラップを迎える。トップ争いは3台となり、大八木が2番手でトップの奥本に迫る。だが、猛追はここまで。奥本は大八木を抑えて、そのままポールtoウィンで逃げ切った。



#16奥本隼士は一度トップを譲ったが、それでも逆転でポールtoウィン。大井偉史、大八木龍一郎らを振り切った



優勝した奥本隼士、2位の大八木龍一郎、3位の大井偉史。三つ巴のトップ争いは見ごたえあるものだった

■CS2 class

西村和真がポールポジションを獲得。2番グリッドのいむらせいじ、3番グリッドの松本吉章は1ポイント差でシリーズチャンピオンの座を争う。松本がホールショットを奪うが、西村は松本をオーバーテイクしてトップになりオープニングラップを終える。予選で2分12秒763とコースレコードを塗り替えた西村は好調をキープ。2周目で早くも独走態勢になる。5周目でいむらが松本をオーバーテイクして、2番手に浮上する。6周目で再び、松本が2番手になる。いむらがシケインで松本をパスして2番手になりファイナルラップを迎える。ファイナルラップもシケイン勝負となり、これに中里紀夫も加わり三台がほぼ横並びでフィニッシュラインを通過。西村はポールトゥウィン、いむらは19秒613で2位、松本は19秒694で3位。いむらがシリーズチャンピオンを決めた。



#24西村和真は予選でコースレコードを更新。決勝ヒートでも圧倒的な速さを見せつけた



西村和真が優勝。シリーズチャンピオンを懸けた、2位いむらせいじと3位松本吉章のバトルは最後まで目が離せなかった

■FORMULA REGIONAL Race 13レース

ポールポジションは大草りきだったが、2番グリッドの古谷悠河がホールショットをゲット。古谷を先頭に大草、そして塩津佑介、小川颯太が追う。マスタークラス優勝を目指す田中優暉とTAKUMIが接触。これにより12レースに続いてセーフティカーが導入され、残り8周でリスタートされる。シリーズチャンピオンを確定させている古谷は、好調をキープしてトップを快走。2番手の大草と古谷は差があり、バトルにまではならない。3番手塩津、4番手の小川との差もじわじわと広がり始める。その中でファイナルラップへ。シリーズチャンピオンの古谷は有終の美を飾るトップチェッカー。総合8位の畑享志がマスタークラスのチャンピオンを決めることになった。



12レースですでにシリーズチャンピオンを確定させた#28古谷悠河。2番グリッドから優勝を決めた



古谷悠河がシリーズチャンピオンとして最終戦で勝利。2位は大草りき、3位は塩津佑介となった

■FORMULA REGIONAL Race 13レース マスターズ



勝利した今田信宏、2位は畑享志、3位はDRAGON。畑はこれでマスタークラスのシリーズチャンピオンを決めた

■FORMULA REGIONAL Race 13レース マスターズクラスのチャンピオンとしてチーム表彰を受ける



マスターズクラスのチャンピオン、畑享志とチーム「Team Super License」

■FORMULA REGIONAL Raceのチャンピオンとしてチーム表彰を受ける



シリーズチャンピオンを決めた古谷悠河とチーム「TOM'S YOUTH」

■F4 class ファイナル

ポールポジションの元嶋成弥がホールショットを奪いレースがスタート。加藤智が2番手、3番手はハンマー伊澤だ。ハンマー伊澤、金井亮忠、鈴木智之がバトルを繰り広げる中、元嶋は順調にトップをキープ。最後尾17番手スタートのHIROBONIは9番手にまで順位を上げる走りを披露。7周目、ハンマー伊澤が加藤智の前に出て2番手に浮上するも、トラブルか5番手にまで順位を下げてしまう。その間も元嶋は独走を続け、8周目には2番手加藤との差は約11秒もある。だが、ここで元嶋がマシントラブルからピットへ、さらにハンマー伊澤もピットへ入ってしまった。レースは展開にも助けられた加藤がトップチェッカーを飾った。



2番グリッドからスタートして勝利した#10加藤智。最後まで粘り逆転を呼び込んだ



大逆転勝利となった加藤智。2位は金井亮忠、3位はバトルを制した鈴木智之となった

■F4 class ファイナル ジェントルマンクラス



総合1位の加藤智はジェントルマンクラスでも1位に。2位は早坂公希、3位のHIROBONは次レース出走のため登壇できなかった

■VITA class ファイナル

マーシャルカーが離れローリングスタートからレース開始。ポールポジションの奥本隼士が好スタート、奥本を大八木龍一郎、大井偉史が追う。S字で接触がある波乱の展開の中、大八木がオープニングラップでトップへ躍り出る。大八木、奥本、大井のトップ3は数珠つなぎの状態だ。上岡広之を先頭にした7番手争いが激しい。130Rを過ぎたあたりで、堀田誠がコースアウトを喫し5周目でセーフティカーが導入される。残り3周でセーフティカーランが解除、トップを走るのは大八木だ。大井は奥本をパスして2番手に浮上するが、逃げ大八木。奥本も果敢に2番手を狙い最終ラップのシケインで大井に仕掛けるが無念のコースアウト。大八木が勝利した。



#1大八木龍一郎はオープニングラップでトップに立つと、そのまま波乱のレースを制してみせた



VITA日本一決定戦で勝利した大八木龍一郎。2位は大井偉史、3位の中里紀夫の走りも光った

■スーパーFJ class ファイナル

ポールポジションは前日の第1レグAグループのウィナー岡本大地だ。2番手は佐藤巧望、3番手に上野大哲。岡本はホールショットを奪うと、佐藤、上野が続きオーダー通りの展開に。上野が2番手に浮上すると、4番手以降は高口大将、森山冬星、八巻渉らが続く。レース5周目、それまで1秒以上あった岡本との差を、じわじわと2番手の上野が詰めてくる。6周目の1コーナーあたりで上野がトップに立つが、すぐに岡本は逆転でトップへ再浮上。9周目、ついに上野は1コーナー付近のバトルで岡本を抑え込むとトップへ。ファイナルラップでも2番手を走る岡本を抑え切り、上野がそのままトップチェッカー。岡本とのバトルを制した上野が日本一の座に就いた。



3番グリッドスタートだった#38上野大哲。それでも終盤まで諦めず、日本一の座に輝いた



岡本大地をパスして、逆転勝利した上野大哲。3位は高口大将となった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

フォーミュラEnjoy Classで勝利

山崎 一平 選手(レプリスポーツエンジョイFE2)



「鈴鹿サーキットは得意。自信をもって走れた」と語る山崎一平選手。最終戦を勝って終えた

Q: 決勝ヒートは見ごたえのあるレースでした。

「芦田将吾選手に抜かれたり、大変な場面はありました。ただ、徐々にタイヤも温まってきたらいいかなという考えもありました」

Q: 今シーズンの最終戦が終わりました。

「2月に行われた初戦は出ることができず、岡山でのレースも初めて走るサーキットでしたから振るいませんでした。でも鈴鹿は得意。勝つことができてよかった」

Q: 今後の目標は。

「最後に勝てたことで、調子をキープできると思います。好感触のまま、来シーズンもこのクラスに挑戦したいです！」